



チラシを スコアシートに 二宮清純

ゲームが大好きな少年だった。E社の「野球盤」や同社やT社のボクシングゲームは今でも実家に置いてある。宿題をやった記憶はないが、ゲームは毎日やってた。

とりわけ「野球盤」には長い間、ハマってしまった。新しい種類が出るたびに貯めていたお年玉で購入し、押し入れの中が「野球盤」だらけになってしまったこともある。

「野球盤」は基本的には二人でプレーするものだが、弟と年が離れていたため、私はひとりで楽しんだ。つまりピッチャーとバッターの「役を同時にこなすのだ」といって、そう難しいものではない。右手でピッチャーのレバーを引き、左手でバッターのボタンを押せばいいのだ。いわゆる「ひとり野球」である。ゲーム

にリアリティを持たせるためスコアもきっちりつけていた。

いくつもの妄想チームをつくった。妄想チームだけで「野球盤・甲子園」を開催したこともある。私は主催者であると同時にプレーヤーであり、はたまた公式記録員でもあった。

さて問題はどんな紙をスコアシートにするか、である。最初は学習ノートを使っていた。ある時、それが教師に見つかってこっぴどく怒られた。

「ノートを遊びで使うものじゃない！」
「やがてその話は母親にも伝わった。」
「最近よく、ノートを買ってきてくれ」と言うもんやから、珍しく勉強しとると思っ

ていたら、そんなものに使ってたん〜」
母親にも怒られた。

そもそも母親が私が宿題もせずにゲームに夢中になっていることを快く思っていないかった。だから自室にこもってこっそりひとりで遊んでいたのだが、教師が「チクッた」として全そバレってしまった。スコアブックを買おうにも、当時ほどこで売っているかわからなかった。文房具屋にも置いていなかった。そこでノートを代用したのだが、教師と母親にバレたことで、もうこれは使えない。

さて、どんな紙があるのか……。ある日、不意に目に止まったのが、新聞の中

にはさんである折り込み広告だった。いわゆるチラシである。スーパーの安売り情報が主だった。

「これだ！ と私は心の中で叫んだ。チラシの裏は真っ白であり、どのようにでも使うことができる。しかもチラシのほとんどは長方形であるためスコアシートとしてはすごくぶる使い勝手がいいのだ。」

それからというもの、私は両親よりも早く起き、新聞を読んでいるフリをしてチラシを集めた。父親は「新聞を読めば社会のことがわかるようになる。そんなに熱心に読むんやったら、もう一紙とっておいで」とひびく「機嫌だった。」

ただ読むフリをしているだけでは、いずれ本当の目的がバレしてしまうので、親の前では必死になって活字を目で追った。不思議なものでやがてゲームよりも新聞を読むことの方が楽しくなってきた。習慣とは恐ろしいものである。一般紙とスポーツ紙、ほぼ全紙に目を通すことと私の一日は始まる。



二宮清純(にのみや・せいじゅん) 1960年、愛媛県生まれ。スポーツジャーナリスト。五輪は88年ソウル大会から、サッカーW杯は90年イタリア大会から取材。『スポーツ名勝負物語』『最強のプロ野球論』『スポーツを「見る」技術』『勝者の思考法』『ワールドカップを読む』『陸天楼のダグアウト』など著書多数。HPアドレスは<http://www.ninomiya-sports.com/>

Let's think together! 地球温暖化を防ぐ私たちの小さな一歩

60万haに拡げること目標に、国内外で植林を行っています。

最近ベランダに鉢植えを置いているお宅を見かけることが多くなりました。見た目の癒し効果があることはもちろんですが、地球温暖化の原因となるCO₂を植物が吸収してくれることも無関係ではないのかもかもしれません。私たち紙パルプ産業ではCO₂の排出を抑制する努力とともに、それを吸収する木を育てる事業を推進しています。木は空気中のCO₂を吸収し、体に蓄える



(固定する)ことで生長します。そのため、若木が多い森林はより多くのCO₂を吸収、温暖化を防ぐ大きな力となっています。木を植え、8~10年の歳月をかけて育て、紙の原料として利用し、また植える……。木の大切さを誰よりも知っている私たちだからこそ、循環型の植林をより多くの場所で行い、地球温暖化防止に役立てていきたいと思っています。



次回は10月6日号、福島敦子さんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>